

【第1号議案】

2022年5月21日

2021年度事業報告書

1. 事業活動方針

- (ア) 認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るように努め今後の寄付活動の準備を進めた。賛助会員の募集キャンペーンを実施。
- (イ) 小田原城天守を木造で復元するために必要な調査や関連事業を実施。
- (ウ) Web や SNS を通して広く木造復元の周知活動。またイベントを開催して普及活動を実施。

2. 事業内容

(ア) 小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城天守調査研究プロジェクト（次ページ参照）

- 1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為の研究活動。

② 講演会(2022年2月13日)

- 1. 創立記念事業として当会の小田原城調査研究室から小田原城天守に関する三つの史料について講演（Zoom 配信）。
- 2. 調査研究関係者とのパネルディスカッション。

(イ) その他この法人の目的を達するために必要な事業

- ① 当会の認定 NPO 更新申請が通り、2026年12月まで認定期間が延長された。
- ② 昨年度に引き続き継続的に天守木造復原に係わる市当局との調整を図り、天守木造復原に必要な(FS: Feasibility Study(可能性検証検討)、ならびに公的組織立ち上げの可能性)研究を行なった。
- ③ 当会の Web サイトや SNS、紙面による「お城通信」等にて活動内容の周知や普及活動を行なった。
- ④ 当会のポリシーを伝える冊子「小田原城天守から未来を創る」を作成

以上

小田原城天守調査研究室 事業報告

1. 研究内容

本研究室は2018年度に策定した研究概要に則り、随時調査・研究を継続している。2021年次(2021.6～2022.5)は主に、実測調査した史資料の図面化とその考察、「小田原城三重天守引図」と「東大模型」の追加調査及び史資料調査を行った。

(ア)主な調査・研究

①「小田原城三重天守引図」

実測調査を基に図面化したものを考察中であり、特に構造技法についての新知見を得た。類例となる技法の調査を進め、構造的な特徴の把握に努めている。

②「東大模型」

詳細な実測調査を行い、その図面化を進めている。「大久保神社模型」とともに『小田原城天守模型等調査研究報告書』記載の図面との比較検討も行った。

(イ)研究成果

上記についてこれまでの成果と今後の課題を示す。

- ①「小田原城三重天守引図」については、考察中であった基準柱間を、暫定ながら6.5尺と推定している。また、特異な指物による架構技術が見いだせた。高さに関する墨書や柱脚部などを表現したディテールも特徴的であるため、本図が実際に設計図だったのかの検討も含めて引き続き考察中である。
- ②「東大模型」については、詳細な実測結果が得られたものの、作図上、一部計測不足があったため再度の実測調査を小田原市に依頼中である。「大久保神社模型」は「引図」と他の模型と比較して三重目が特に低いことが判明した。小屋組も特異であるため、引き続き当時の制作意図を加味した考察が必要である。「東大模型」に関しては、柱に付された「廻り番付」や架構の納まりから「互入式通柱構法」と呼ばれる架構法が採用されていると考えられる。その他の技法や修理の痕跡などからも、制作年代や目的の考察を進めている。

2. 今後の活動

(ア)成果の発表

「東博模型」の実測調査に繋げるべく、これまでに実測・図面化した史資料の考察を進め、6月中までには数本を日本建築学会に発表する予定。

(イ)史資料調査

小田原市との協働の下、模型と共に所蔵史料（特に他の引図、絵図）について引き続き調査を行っていく。

以上